

# 杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

## 大学新聞

1面 地域社会と連携した教育・研究活動  
平成25年度文科省支援事業に採択

2面 第3次中期5カ年計画始まる  
進化する大学を目指して

4面 杏林見聞録①  
総合政策学部 劉迪准教授  
キャンパス情報⑩  
株式会社KRL 大澤一仁さん

5面 卒業生、在学生リレー  
matoru デザイナー 関口真希子さん  
医学部 古野肇さん  
杏林年代記 開設10周年 - 1976年の杏林学園

6・7面 学部・大学院トピックス

8面 連載 金田一教授の研究室  
健康ひとくちメモ、数字でみる杏林大学

# 教育・研究資源を活用 3市と連携強化

## 平成25年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に採択

文部科学省が平成25年度から取り組む「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に本学が申請した「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」が採択されました。

この事業は、自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を国が5年間にわたり支援するもので、全国342の大学等から319件の応募申請があり、52件

が採択されました。

本事業は地方の活性化を主なねらいとしたものとみられ、採択されたのは大半が地方都市の大学で、東京の大学では申請28大学のうち芝浦工業大学と本学の2校だけでした。

昨年度の「グローバル人材育成推進事業」に続く文科省事業採択となります。

### 新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点 概念図



## 地域社会への新しい一歩“杏林 CCRC”

地域交流推進室 室長 古本 泰之 (外国語学部准教授)

### いま、求められる大学の役割

文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」の目的は、「大学機能(教育・研究・社会貢献)の地域志向化の促進」とされています。つまり、大学が立地する自治体との連携関係を前提に、学長のリーダーシップの下で、教育カリキュラム・組織の改革などを通じて全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を展開していくことを求めたものです。

文科省のこの支援事業は5年間となっていますが、平成30年度以降も本学独自で事業を継続することとしています。

### これまでの実績をふまえ、杏林大学がめざす3つの構想

本学が提案した「新しい都市型高齢社会における地域と大学の統合知の拠点」構想は、「都市型高齢社会の健康と安心

を重点的に取り組むべき地域課題と設定し、学生と地域関係者が共に学ぶ「生きがい創出」・退職団塊世代の「健康寿命延伸」・大規模自然災害に備える「災害に備えるまちづくり」の3テーマに基づいて、これまでの4学部のさまざまな地域交流活動を前提に教育・研究・社会貢献全ての側面での強化を図るものです。

その舞台は東京都三鷹市・八王子市・羽村市の3市で、本計画の実施に向けた連携についてすでに合意しています。

本事業の取り組みは多岐にわたりますが、主に以下のような内容となっています。

#### 1. 地域のさまざまな課題に対応する組織の整備

4学部の教育・研究資源を動員し、大学と地域との包括的な連携体制(杏林 CCRC Center for Comprehensive Regional

Collaboration)を推進するため、「杏林 CCRC 研究所」を新たに JR 三鷹駅前に開設します。

また、連携3市と地域課題について協議する場として、自治体等との会議体である「杏林 CCRC ラウンドテーブル」を設置するとともに、地元住民との交流の場として各自治体の市街地に「杏林 コモンズ」を設けます。

これらの整備を通じて、連携3市における多様な課題を本学の教育・研究資源とマッチングさせる機能を強化していきます。

#### 2. 教育活動の地域志向化

地域における大学の役割を理解するための科目を全学部の1年生に対して必修として設定します。

あわせて、PBL型「プロジェクト演習科目」として既存科目の地域志向化・一部科目の新設を行い、大学と地域との包括的な連携体制を通じて吸い上げられた地域課題を題材とした問題解決力養成の場とします。

学びの場はキャンパスのみならず、地域全体に積極的に広がっていきます。

また、プロジェクト演習科目も含めた地域課題に関わる科目を「ウェルネス(生きがいづくり)科目群」として編集し、地域住民の学びの場としても展開していきます。

#### 3. 社会貢献の強化

「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3テーマを中心に、健康教育活動など4学部の地域を舞台とした取り組みを本事業における「地域志向教育研究経費」などを通じて支援・促進していきます。

#### 三鷹市を中心にパートナーシップを強化

本学は平成28年に三鷹市下連雀地区に新キャンパスを建設し、教育・研究機能を三鷹市に統合します。

それをひとつの契機として、連携3市における包括的かつ体系的な地域連携活動を展開していくことが本事業の重要な達成目標です。

# 地域から世界へ 進化する大学を目指して



第3次中期計画の柱の一つが大学のグローバル化の推進です。今年度医学部6年生12人がアメリカとカナダの病院に臨床留学しました(6ページで紹介)。

本学の教育の大きな柱、グローバル教育については、教育の国際的な質保証や海外協定校を拡大して学生の海外留学を促進するなど、引き続き事業の拡充が必要です。

また、第2次中期計画からの継続課題として、学部連携科目の充実や全学共通科目の検討、それに入学者の安定継続確保や就職率の向上などがあります。

さらに、本年8月には文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業」に本学の申請事業(1ページ参照)が採択され、新たな取り組み課題として加わりました。

向こう5年間の第3次中期計画の実行は、3年後の八王子キャンパスの三鷹への移転という学園創立50周年記念の大事業と重なって極めて重要な取り組みです。

## 創立50周年も視野に 杏林大学第3次中期5カ年計画スタート

第3次中期計画実行委員長 神谷 茂 (学長補佐/医学部教授)

### 第3次中期計画までの道のり

杏林大学ではこれまでに第1次(平成17年度)および第2次(平成22-24年度)中期計画を実施してきました。これらを踏まえ、平成25年7月の学園運営審議会にて第3次中期5カ年計画(平成25-29年度)が決定されました。

第3次計画は平成28年4月のキャンパス移転を大学改革の大きな転機と捉え、移転を挟む5年間を計画実行期間とし、引き続き杏林大学のクオリティを高めるための改革を推進することが大きな目的です。

第2次中期計画では、全学的な課題である「中退者の減少」、「入試改革」などについてそれぞれ単独の実行部会で検討されましたが、部会に決定権限がなかったり既存関連組織との連携が十分でなかったところもありました。この反省に立ち、第3次中期計画においては、「中

退者の減少」問題は一実行部会に任せるのではなく関係部署がそれぞれ全力で取り組む全学を挙げての事業と位置付け、「入試改革」に関しては学長、学部長らによる入学試験委員会が担当することになりました。

その結果、第3次中期計画実行委員会内に組織される、下表の事業内容の各項目に取り組む横断的な実行部会は、第2次中期計画の10部会から5つに絞られました。

### 大学認証評価へも併行して取り組む

一方、大学の内部質保証、教育・研究・社会連携・国際連携・財務などの様々な点について、杏林大学は7年毎に大学基準協会により認証評価を受けております。第3次中期計画の実行にあたっては、平成27年に予定されている受審に向け

て、学園の自己点検・評価委員会と連動して改善が必要となっている諸問題の解決を進めます。

### 地域から世界へ、進化する大学

第3次中期5カ年計画のスローガンは「地域から世界へ、進化する大学 "Global Study from Your Town"」と決まりました。杏林大学の更なる発展を意図する明確なスローガンであり、教育機関、研究機関のみならず幅広い領域に本メッセージを発信していく所存です。以下に杏林大学第3次中期5カ年計画の基盤となる5事業の概要を説明いたします。

#### 1. 八王子キャンパスの三鷹への移転

(実行責任者: 松田剛明副理事長)  
昨年設置された八王子キャンパス移転検討委員会が中心となり、三鷹移転に関する業務の推進を図ります。同委員会で

は、ICT環境の整備等10の課題について検討を加え、3年後の三鷹へのスムーズな移転を推進いたします。

#### 2. 大学グローバル化の推進

(実行責任者: ポール・スノードン副学長)  
昨年採択された文科省グローバル人材育成推進事業の推進母体であるプログラム推進委員会が主体となり、本学国際交流センターとの連携により、本学の教育、研究におけるグローバル化を推進します。

#### 3. 教育の質向上と学生の成長支援

(実行責任者: 跡見 裕学長、ポール・スノードン副学長)  
新教育課程の構築、大学教育の質的転換、入試改革、学生生活支援、学生のキャリア支援の5項目において、第3次中期計画実行委員会、入学試験委員会、学生支援センター、キャリアサポートセンターなどが中心となり、本学における教育環境の大幅な改善を目指します。

#### 4. 杏林大学の機能強化

(実行責任者: 跡見 裕学長、神谷 茂学長補佐)  
大学のガバナンス強化、大学院の強化、研究活動の活性化、教職員の職能開発、高大連携の推進の5項目において、大学事務局および実行部会が中心となり、これらの活動を進めます。

#### 5. 大学の地域貢献・地域連携

(実行責任者: 跡見 裕学長)  
地(知)の拠点づくりを目的として、地域交流推進室および杏林 CCRC (Center for Comprehensive Regional Collaboration) 研究所が中心となり、本学と地域との連携を目指します。

具体的には「生きがい創出」「健康寿命延伸」「災害に備えるまちづくり」の3つの観点から、生涯学習の機会の増加や学校保健教育への積極的な協力、子育て支援などの点において、大学が所在する地域との連携を図ります。

※ ※ ※

杏林大学第3次中期5カ年計画の内容は大学機能の全てにわたり、その遂行は容易なものではありません。

本学が現時点から高く飛翔し、「地域から世界へ、進化する」ために、教職員・学生・保護者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 杏林大学第3次中期5カ年計画 5つの事業の概要

事業区分	事業内容	主な取り組み課題
1. 八王子キャンパスの三鷹移転推進	新キャンパスの建設	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT(情報通信技術)環境の整備</li> <li>充実した学習環境の構築</li> <li>学生満足度の高い福利厚生の実現</li> <li>全学部のグローバル化を実現するための環境を充実</li> <li>優秀な学生を確保するための戦略的な広報プランの策定</li> <li>キャンパス移転後の跡地利用計画の策定・提言</li> </ul>
2. 大学グローバル化の推進	留学・グローバル教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学部生を対象とした海外研修・留学の促進・支援</li> <li>海外協定校の開拓・拡大</li> <li>教育の国際的な質保証</li> </ul>
3. 教育の質向上と学生の成長支援	新教育課程の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>文系2学部のカリキュラムのオープン化</li> <li>留学中の学修の単位認定の方法</li> <li>全学共通(教養)科目の検討</li> </ul>
	大学教育の質的転換	<ul style="list-style-type: none"> <li>学修時間の飛躍的増加、授業計画(シラバス)の充実等</li> <li>学生の「主体的な学び」を拡大する教育方法の改革</li> <li>学内教育GP(先進的な取り組み)の導入・実施</li> </ul>
	入試改革及び入学者の継続的確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的學生募集計画の実施</li> <li>入試日程、入試形態及び募集人数枠の検討</li> <li>高校段階での学力状況を多面的・客観的に把握する様々な仕組みづくり</li> </ul>
	学生生活の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金・奨励金の充実</li> <li>スポーツ等課外活動施設の整備</li> <li>学生支援センターを4学部へ拡大</li> </ul>
4. 杏林大学の機能強化	学生のキャリア支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の安定した就職先確保とその就職率の向上</li> <li>就職先の開拓と企業等との連携・関係維持</li> <li>グローバル社会に対応したキャリア支援</li> </ul>
	大学のガバナンス強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>学長のリーダーシップの下、迅速な意思決定を可能にする組織運営の確立</li> <li>大学情報の公表の徹底(大学ポータルサイトの作成)</li> <li>国公私立大学の設置形態を越えた新たな大学間連携の枠組みの検討</li> </ul>
	大学院の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>学部と連結した大学院の教育課程の体系化</li> <li>大学院生の定員充足</li> <li>産業構造の変化や新たな学修ニーズに対応した社会人の学び直しの推進</li> </ul>
	研究活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学の研究力強化促進のための支援の加速化</li> <li>大学の研究システム・環境改革の促進</li> <li>競争的資金の積極的獲得のためのインセンティブの強化・先進的取り組みの促進</li> </ul>
5. 大学の地域貢献・地域連携	教職員の職能開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学職員として必要な知識・スキルの涵養</li> <li>職員の職能開発システムの構築・実施</li> <li>他大学と連携したFD・SDの実施</li> </ul>
	高大連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>高大連携の拡大</li> <li>高校生の杏林大学講義への参加促進 高大連携教育協定の締結を拡大</li> <li>高校教員と本学教職員による高大連携協議会設置を検討</li> </ul>
	「地(知)の拠点整備事業」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域(社会・産業・行政)と大学との組織的な連携強化</li> <li>大学の生涯学習機能の強化</li> <li>地域の課題解決への貢献</li> </ul>

## 杏林見聞録

りゅうてき

## 総合政策学部 劉迪准教授

杏林大学の医学部、保健学部、総合政策学部、外国語学部、そして大学院には約 1,000 人の教員が所属しており、教員一人ひとりの研究活動は杏林大学固有の大きな財産です。

大学新聞では杏林の知的財産である教員の研究活動、優れた社会貢献やユニークな活動などを新コーナー「杏林見聞録」として随時紹介していきます。

第 1 回は、専門の近代中国政治・中国メディア論の研究のかたわら、「日本学術文庫」の発刊を通して、日中間の文化・思想の交流に尽力する総合政策学部の劉迪准教授にインタビューしました。

## 「日本学術文庫」発刊の意義と役割

中国の学生やインテリ層の日本への関心は高いといえます。日本のことをきちんと理解して解説していくのは学者などの知識人です。私はそういう学者や知識人が日本の文化や日本人の思想について、より深く知識を得るためにもこの企画を成功させたいと考えています。

## 日本の学者・評論家 100 人に手紙

「日本学術文庫」の出版企画にあたり、日本の学者・評論家 100 人をリストアップして協力を仰ぐための手紙を書き、およそ 70 人から返事をいただきました。司馬遼太郎氏は全集を送っていただきました。評論家で医学博士の加藤周一氏は多方面にいろいろ働きかけてくださいました。

中国の学術書出版の最大手である商務印書館は、この「日本学術文庫」が中日二国間の相互理解と友好関係の架け橋となるとして出版を引き受けてくれました。

私の呼びかけに賛同して中国人の在日研究者 40 人の同志が「日本学術文庫」全 150 巻の壮大な構想に力を注ぐことになりました。

## 2006 年に第 1 巻『風土』(和辻哲郎)、『甘えの構造』(土居健郎)を出版

第 1 回配本は和辻哲郎の『風土』でした。このとき日本のテレビや新聞など多くのマスコミに私たちの翻訳プロジェクトが紹介されました。日中学術交流への関心の深さがうかがえました。現在まで 16 巻が翻訳され、うち 8 巻が出版されました。

このシリーズものの翻訳で一番大事なことは、日本の文化や思想がきちんと理解できていることで、つまり、同じ専門をもち、日本語に長けている学者である

ことでした。翻訳には深い知識と膨大な時間が必要です。中には博士論文の提出を遅らせてまで学術文庫の翻訳を優先し力を注いだ訳者もいました。私たちはそのような使命感をもって真剣に取り組んでいます。

当初は 10 年計画のプロジェクトでした。アカデミックな本の翻訳を一冊完成させるのに多くの時間がかかりますが、困難をこえて頑張っていく所存です。

## いまこそ互いの文化・思想の交流を

領土問題で日中関係は冷え込んでいます。こういう時こそ両国の文化・思想に深い知を持つことが求められます。二国間が様々な問題を乗り越え、互いに深く理解しあうことが必要です。中国に紹介する「日本学術文庫」はいまこそ大きな役割を担っていると信じています。

## 学生に伝えたいこと

グローバル時代のいま、学生たち一人ひとりに求められているのは、他の国の文化や考え方に触れ、相手を知り、そのうえで、自分の考えを発信することです。

他の国を知る機会として、中国や米国の大学から知人の研究者が訪日した



## 「日本学術文庫」出版リスト ●既出▲翻訳済○翻訳中

- 和辻哲郎『風土』(風土)
- 土居健郎『甘えの構造』(日本人の心理结构)
- 辻清明『日本官僚制の研究』(日本官僚制研究)
- 義江彰夫『神仏習合』(日本の佛教と神祇信仰)
- 津田左右吉『日本の神道』(日本の神道)
- 内藤湖南『日本の歴史と文化』(日本歴史と日本文化)
- 京極純一『日本の政治』(日本政治)
- ▲丸山真男『(増補版)現代政治の思想と行動』(日本現代政治の思想と行動)
- ▲芳賀矢一『国民性十論』(国民性十講)
- ▲穂積陳重『法窓夜話』(法窓夜話)
- ▲岡倉天心『東洋の理想』(東洋の理想)
- ▲小林秀雄『私小説論 小林秀雄論文集』(私小説論 小林秀雄論文集)
- 丸山真男・加藤周一『日本の近代と翻訳』(日本の近代と翻訳)
- 石母田正『中世の世界的形成』(中世世界的形成)
- 加藤周一『知識人の責任』(知識分子の責任)
- 本居宣長『玉くしげ』(大和玉篋雑稿)

際は、私のゼミで学生たちに直接レクチャーしてもらったりしています。

私のゼミナールでは日本人学生と中国人留学生がともに学んでいて、彼らはお互いに刺激しあい、学生レベルでの日中相互理解が行われています。ゼミ生の嶋村翼君は実際の中国が見てみたい、と 1 年間北京大学に留学中です。

## 北京大学で 1 年間の留学

総合政策学部企業経営学科 4 年 嶋村 翼

中国の歴史などに関心があったので留学先は中国と決めていました。劉先生の紹介で、今年 4 月から北京大学に留学しています。

授業は 9 時から 17 時までであり、中国語のスピーキング、文法、リスニングなどを学んでいます。宿題は思っていた以上に多く、さらに毎月一回行われる学習成果の発表のための資料作りに奮闘する日々です。



留学を終えるまでに HSK6 級を取得したいし、もっと多くの中国人や他の国の留学生と友達になりたいと思っています。

スピーキングクラスの友人と(左から 3 番目が本人)。

の会社、仲間達と協力して実現可能な道を見つけます。

お客様、協力会社との信用、信頼があって仕事はうまくいくと思います。

当たり前のことですが、時間、期日を守ることから始まり、相手のことを考えて行動できれば、仕事はスムーズにまわっていきます。

それから、「縁」。これまで学園にかかわってきた方々もそうだと思いますが、私も縁あって今の仕事をしています。

## ——社会科学部の 2 期生と聞きました

はい。ゼミは土居弘元先生、部活は硬式野球部でした。学生や卒業生には母校愛をもってほしいと思います。卒業しても母校に顔を出してほしいですね。

学生がキャンパスでしか作れない思い出をたくさん作るよう、そして学園がこれから刻んでゆく歴史に役立てるような仕事をしたいと思っています。何より

それが一卒業生としての喜びです。

## ——学生へひとこと

人との出会いを大切にしてほしいです。出会いや縁は、自身の財産になります。

社会に出てから多くの困難があっても、多くの仲間がいれば助けてくれます。逆に仲間が困っている時に助けることもできます。

だから人との出会い、縁を大切にしています。仲間が多くいると人生楽しくなりますよ!!



サブウェイでパンを焼いたり、入学試験時には温かい飲み物やカイロを販売したり…なんでもこなしてしまう大澤さん。「暑い時期に開催するオープンキャンパスではこれがない!」と、衣装から小道具まで揃えてしまった大澤さんに驚きました(聞き手)



略歴：中国黒竜江省出身。中国社会科学院研究生院修士課程修了。早稲田大学大学院法学研究科博士課程修了(法学博士)。人民日報国際部記者・編集員、早稲田大学社会科学研究所外国人研究員、慶應義塾大学文学部随時講師などを経て、杏林大学総合政策学部准教授。専門は近代中国政治、中国メディアと表現の自由。単著に『現代西方新聞法制概説』(中国法制出版社、1998 年)、『近代中国における連邦主義思想』(成文堂、2009 年)、『鳩山由紀夫—日本民主党政治的開幕』(東方出版社、2009 年)、『三昧日本』(知識産権出版社、2011 年) などがある。

## 日本への関心

文化大革命が終結し、外の情報に接するにつれ、隣国日本の発展に驚き、その理由はどこにあるのか知りたいと思ったのが、日本に関心を持つようになったきっかけでした。国家の近代化には科学技術の発展と民主主義そして固有の文化の 3 つが必要と考えています。

日本が国として発展した根底にある文化や思想について知ることはこれからの中国に大いに参考になると考えました。村上春樹など世界各国で翻訳されている本は中国でも容易に入手できますが、日本の本質を知りたいという要求に応えうるアカデミックな文献は少なかったのです。それならば自分で何とかしようと、日本の優れた学者、評論家の著書を中国語に翻訳する「日本学術文庫」の発刊計画を立てました。

## キャンパス情報⑩



KRL の主な業務内容は、杏林大学院内の売店、カフェ、介護用品店、理美容室などの病院利用者サービスと、三鷹・八王子キャンパスの学生食堂、コンビニエンスストアなどの大学利用者サービス

ケイ・アール・エル

## 株式会社 KRL

学校法人 杏林学園 関連会社

本社は東京都三鷹市新川 6 丁目 9 番 28 号 SSビル。従業員数約 300 人。平成 12 年 3 月、学校法人杏林学園の支援事業を目的に、前身の(株)ケイ・アール・ロジスティックス設立。翌年 12 月、一般労働者派遣事業を主要事業とした(株)ケイアール・ブレイン設立。平成 23 年、ケイ・アール・ロジスティックスとケイアール・ブレインが合併、(株)KRL となる。

を提供しています。他に、フランチャイズ店舗の運営や管理、学園関係者向けの各種保険サービスなどを扱っています。

営業本部長の **大澤 一仁** さんにお話を伺いました。

の学生食堂の運営管理、杏林オリジナルグッズの制作・販売を行っているの、2 つのキャンパスを行き来しています。

## ——仕事で一番大切なことは何でしょう

KRL の仕事は学園の後方支援です。学生や教職員、患者さんの要望に対して私たちに何ができるのかを常に考えています。KRL だけではできない仕事は、専門



## ——どのような仕事をされているのですか

平成 18 年の八王子キャンパス K-Shop(コンビニ)、22 年の同キャンパスサブウェイの開所にそれぞれ初めから携わりました。

いまは、主にこれらの店舗や両キャンパス



# 2013年 学園祭

## 杏園祭実行委員

委員長 齋藤慎弥 (総合政策学部総合政策学科3年)  
 副委員長 広報局 船瀬香澄 (外国語学部観光交流文化学科3年)  
 副委員長 屋台局 小笠原理子 (保健学部臨床工学科3年)  
 副委員長 総務局 和氣沙織 (外国語学部観光交流文化学科3年)  
 学生ステーション特別公認団体部門 関健介 保健学部講師

## 杏園祭テーマ

# わっか。 みんな一つになろう

参加者全員で大きな輪(和)をつくりたい



杏林大学の学園祭は八王子と三鷹の2つのキャンパスでそれぞれ開催しています。今年度、八王子キャンパス「杏園祭(きょうえんさい)」は10月12日(土)と13日(日)、三鷹キャンパス「杏祭(あんずさい)」は10月12日に開催します。準備に奮闘している杏園祭実行委員会の役員に話を聞きました。

### 杏園祭実行委員会について教えてください

**齋藤** 杏園祭実行委員会は大学の特別公認団体として活動しています。保健、総合政策、外国語学部の1年生から4年生まで156名が所属しています。クラブと似たような感じです。

**船瀬** 実行委員は企画局、屋内イベント局、広報局、屋台局、総務局、財務局のいずれかに所属します。各局の業務は局長を中心に行われ、委員会全体の動きは局長会議で把握します。業務をスムーズに引き継げるよう、基本的に4年間同じ局で活動します。

**和氣** 私は1年生の時から総務局で活動しています。今年は私たち3年生が各局の中心となって活動しています。

**関** 局ごとに教員がついて、学生からの相談などに応じています。

継続して杏園祭を担当する教員も多いので経験をふまえて学生にアドバイスをすることもありますが、決定し、行動するのは学生です。教員は学生が自ら考え、実行する手助けをしています。

### 学園祭テーマに込めた思いを教えてください

**齋藤** 「わっか。みんな一つになろう」は、在学生や教職員、保護者や卒業生、日ごろ交流を深めている他大学の方々、今回協賛協力をいただいた企業、そして杏園祭の来場者すべての人の「和」をイメージしています。杏園祭では全員が一つになれる「輪」を作り上げたいと思っています。

### どのような企画があるのですか

**齋藤** 高校生に人気の4人組の本格的

ガールズバンド、「Silent Siren」のコンサートを行います。ほかにムード満点の「プラネタリウムカフェ」、元気が出る(!?)「プロレス企画」、会場が沸く「ミスコンテスト」や「男装女装コンテスト」、緑日企画、親子連れに好評の「仮面ライダーショー」などを開催します。

講演会は4つ企画しました。講師に、卒業生で落語家の三遊亭楽京氏、東日本大震災を3年にわたって3Dカメラで取材している智片通博氏、ウルトラセブン等の脚本を手がけた藤川桂介氏、NHKニュースウオッチ9キャスター大越健介氏をお招きします。講演会の参加費は無料ですので、たくさんの方に来てもらえると嬉しいです!

### 各局の準備は順調ですか

**小笠原** 私たち屋台局の主な仕事は出店管理です。食べ物を扱う屋台が多いので衛生対策には最も注意を払います。今後、出店予定の約50の団体に対する説明会も開催します。

**船瀬** 広報局はポスターやパンフレット、ホームページを作成します。杏園祭の演出に欠かせない看板作成とともに夏休みに一気に仕上げます。

今年はツイッター、ブログ、フェイスブックでの情報発信にチャレンジしていますので、皆さんに見てほしいです。

**和氣** 総務局の仕事は、参加団体の趣意書の管理から交通関係まで広範囲に及びます。私事ですが、去年は会場周りの誘導係でしたので、杏園祭自体を楽しむことはできませんでした。でも、無事終了

できて達成感がありました。こういう経験も貴重です!!

今年はオープンキャンパスと同時開催のため、多くの来場者が予想されます。担当の先生に相談しながら、バス会社等各方面への連絡・調整を進めます。いろいろな事態を考えてしっかり準備したいと思っています。

**関** 準備段階においても万全の対策を心がけていますが、当日は想定できないことも多く起こります。学生も教員も、いろいろな経験したことを次の年に伝えることで、さらにより杏園祭を作っていきたいと思います。

### 先生から見た学生たちの印象は?

**関** 今年の実行委員は、時間軸を頭に入れて、計画的に準備をするように心がけているようです。また、積極的に他大学とも交流するなど、とても活動的だと思います。

実行委員が経験していることはとても大切なことです。社会に出ると、企画を立て、予算内、期限内に実行して一定の成果をあげることが求められます。実行委員会の活動はそれに近いと思います。このような経験は学生にとって財産になるでしょう。

### 他大学とどのような交流をしているのですか

**和氣** 明星大学、桜美林大学、玉川大学、成蹊大学、早稲田大学の学園祭を視察しました。また、関東学園祭交流会に参加して、学園祭に関する情報を交換しました。

**齋藤** 明星大学や玉川大学は部活が積極的に参加して学園祭を盛り上げていました。成蹊大学は実行委員会と在学生の連携がよく取れていました。他にも学部ごとに学園祭の運営班が分かれている大学があるなど運営方法も様々でした。

杏園祭の魅力の一つは、緑豊かなキャンパスを舞台にチアリーディング部やダンス部などが会場を盛り上げていることです。この魅力を活かして、2013 杏園祭を盛り上げたいと思っています。

### 杏園祭実行委員会企画

いま、私たちが聞きたい4つの講演

10/12 sat. さんゆうてい らつきょう  
**三遊亭楽京氏講演会**  
12:30-14:30 E402 教室

落語を一席披露。ほかに在学中所属していた野球部の思い出や後輩へメッセージを語る。  
プロフィール: 本名 冬木 茂人。1970年生まれ。杏林大学社会科学部卒業後、百貨店勤務等を経て、平成9年六代目三遊亭円楽に入門。芸歴 平成9年 前座名「楽志郎」、平成13年 ニツ目昇進「花楽京」に改名。平成20年 真打昇進「楽京」に改名。

10/12 sat. ちかた みちひろ  
**智片通博氏講演会**  
15:30-17:00 E402 教室

3年間にわたり追い続けている東日本大震災の報道映像を紹介しながら映像メディア論について語る。  
プロフィール: 1949年生まれ。東北大学卒業後、NHK入局。秋田放送局、報道局、バンコク、ジュネーブ特派員を経て報道局記者主幹、スペシャル番組センターエグゼクティブプロデューサー等を歴任。2010年からNHKメディアテクノロジー経営主幹。

10/13 sun. ふじかわ けいすけ  
**藤川桂介氏講演会**  
13:00-14:30 D108 教室

「セブン暗殺計画」の上映と講演の2部構成。  
プロフィール: 1934年東京都生まれ。RKB毎日放送の構成作家、実写番組の脚本家を経て1966年に初代ウルトラマンの企画・脚本を手がける。第一期ウルトラシリーズ、「マジンガーZ」「宇宙戦艦ヤマト」「六神合体ゴッドマーズ」などのアニメ作品の脚本家として、また『宇宙皇子』などの小説家としても有名。

10/13 sun. おおこし けんすけ  
**大越健介氏講演会**  
15:00-16:00 E402 教室

東日本大震災の取材経験、若者へのエールを熱く語ります。  
プロフィール: 1961年新潟県生まれ。1985年東京大学文学部卒業。高校・大学では野球部で投手として活躍。日米大学野球選手権代表メンバー。NHKでは岡山放送局、報道局政治部を経て、2005年よりワシントン特派員、2007年より同支局長。2010年より、NHKニュースウオッチ9キャスター。

## 三鷹キャンパス 杏祭☆情報

【医学部、保健学部看護学科、看護専門学校】

# 「美」・杏林大学的美しさはこれだ!

開催日: 10月12日(土)

- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>■医学部<br/>あの放送作家の鈴木おさむさんを招いてトークショーを開催します。<br/>後夜祭では軽音学部によるバンド演奏、ダンス、ビンゴ大会などを開催します。<br/>杏祭実行委員長 佐々木海人(医学部3年)</p> | <p>■保健学部看護学科<br/>杏祭では学生生活を満喫している姿を見てください。ミスコン、ダンス、美に関する健康講座、「命のお話会」などを企画しています。皆さんと杏祭を盛り上げたいと思っています。<br/>杏祭実行委員長 藤井拓朗(保健学部看護学科2年)</p> | <p>■看護専門学校<br/>杏祭は、私たち看護学生の日頃の学びを発揮する場です。<br/>皆さんにいろいろな看護体験をしていただこう準備しています。<br/>杏祭実行委員長 大竹 恵(看護専門学校2年)</p> |
|---|--|--|

### 出店・イベント情報

屋台: パン、タピオカ、駄菓子、プリン、マフィン  
看護体験: 血圧測定、看護実習服試着、ベッドメイキング、手洗い、スキンケア、妊婦・高齢者体験、BLS ほか  
イベント: 鈴木おさむ氏トークショー、健康講座、看護体験 ほか

### 実行委員ひとことメッセージ

**齋藤** 杏園祭は皆さんが一つになれる企画が盛りだくさんです。皆さんと思い出に残る杏園祭にしたいと思っています。

**和氣** 在学生も教職員の方も参加して、大きな「わっか。」を作りましょう。

**船瀬** 地域の方や高校生も楽しめる、参加型のイベントがたくさんありますよ。

**小笠原** 在学生の皆さん、屋台をはじめ屋内外の企画に参加して、一緒に盛り上がりましょう。

**関** 杏園祭という場が、高校生、地域の方、卒業生、在学生にとってコミュニケーションが生まれる場、人と人がつながる場になるといいですね。



左から関先生、和氣さん、齋藤さん、船瀬さん、小笠原さん

## 卒業生リレー



### “まとふ”の服に込めた「日本の美」のメッセージ

せきぐち まきこ  
関口 真希子  
(社会科学部 1995年卒)

「matohu (まとふ)」はご主人の堀畑裕之氏とともにスタートしたファッションブランド。「マトウ」と読む。インタビューした表参道本店の外観



社会科学部(現 総合政策学部)を卒業し、現在自ら立ち上げたファッションブランド「まとふ」のデザイナーとして活躍する関口真希子さんにお話を伺いました。

#### — 服飾関係への進路転向は大きな決断でした

法律系の勉強がしたかったので、大学卒業後は大学院に進学するつもりでした。一方で、趣味で作っていた洋服への関心も深まっていて、独学では分からないことが多くなり、「服も勉強するものなんだな」と気付きました。進路の転向はもちろん悩みました。でも、「法律を学ぶチャンスはこの先にまだあるかもしれないけど、服について学ぶことは今しかできない！」そう思い、家族に打ち明けました。大学院に進学すると思っていた家族はとても驚きましたが、私の決意を受け入れてくれました。この先「服」で生活していく、私にとって文化服装学院への入学は、背水の陣でした。

#### — 文化服装学院卒業後はどのような仕事をされていたのですか

デザイナーズブランドでパタンナーとして5年ほど勤務しました。この会社は世界的にもレベルが高く、クリエイティブな仕事に携わることができ、とても有益な経験でした。この間、仕事で海外に行くことがたびたびありましたが、どこへ行っても仕事は英語で行われていて、英語の必要性を実感しました。

2003年に会社を辞めて、のちに「まとふ」を一緒に立ち上げる、パートナーの堀畑とイギリスへ渡りました。イギリスを選んだ理由は、英語を学ぶため、現地で仕事をするため、そして何より、ブランドを立ち上げる準備をするためでした。

#### — 「まとふ」誕生のきっかけを教えてください

海外で暮らしていると、客観的に日本のことが見えてきます。それは、アジアの中での日本だったり、ヨーロッパから見たアジアだったりします。この海外生活の中で自分が表現したい日本のイメージが固まったので、約1年間働めたBora Aksuのアトリエを退社して帰国、2005年に「まとふ」をスタートさせました。これまで経験したことをプラスに変えていく、今はそういう時期だと思っています。

#### — 「まとふ」が伝えたいことは何ですか

私たちは服をとおして、日本らしさを表層でなくもっと掘り下げて表現しようとしています。日本に伝わる、きれいなもの、美しいものをいろいろな表現を使って服に落とし込んでいくのです。2013年秋冬コレクションのテーマは「あはい(あわい)」(漢字の「間」の読み方の1つ)。時間や空間における人と人、人やモノとの微妙な関係の調和をイメージしました。日本の美に関するエビ

## 略歴

1995年 杏林大学卒業、文化服装学院アパレルデザイン科入学  
1998年 同学院卒業、デザイナーズブランドでパタンナーを経験  
2003年 ロンドンのデザイナーのもとコレクションの仕事をする  
2004年 東京・千駄ヶ谷にアトリエを開設  
2005年 (株) リューズテンを設立し、「matohu」をスタート  
2006年 東京コレクションにデビュー  
2009年 第27回「毎日ファッション大賞」新人賞、資生堂奨励賞受賞  
2011年 10シーズンテーマとしてきた「慶長の美」展を開催  
2013年7月 International Wool Mark Prize (®) アジア決勝に日本代表として出場

※プロフェッショナル・デザイナーの世界規模のコンテスト。アジア・ヨーロッパ・アメリカ・中東インド・オーストラリアの各地区で50ブランドが競う。第一回の優勝者は、若きイヴ・サンローランとカール・ラガーフェルド。

ソードをお客様と共感しつつ、服をとおして生活に楽しみを感じていただければ嬉しいです。

こういうことを、広く海外の方にも知ってもらいたいと思っているので、「まとふ」のホームページは英語でも発信しています。また、海外での仕事も年に1~2回あり、去年は国際交流基金の依頼で文化交流としてブラジルでファッションショーを開催しました。

#### — 後輩の杏林生へメッセージをお願いします

大学での学びも今の仕事も、私の中では好きなこと、関心のあることをしている点では変わりありません。それに、ものを作り、会社を運営している今、大学で学んだ法律の知識や思考法はとても役に立っています。大学卒業後、一回切れてしまったように見える道も、振り返ると連続性がある、根っこで繋がっていると感じています。

「好きなこと」がその人にとって、一番の才能のような気がします。好きという気持ちがあれば、続けることも、乗り越えることもできるのではないのでしょうか。学生時代にいろいろなことに積極的に取り組んで、好きと思えることを見つけてほしいと思います。自分が経験したことは、この先、多くの場面で繋がっていくと思います。

学園創立 50周年へ 6

# 杏林年代記

開設10周年-1976年の杏林学園

## 医学部完成・短大開学10年記念総合式典

杏林学園が1966年に杏林学園短期大学を開設して10周年、また1970年に杏林大学を開設してから6年を経て、第一回の卒業生を輩出するというこの年、「杏林大学医学部完成・杏林短期大学開学10年記念」総合式典を挙行了しました。



松田進勇理事長による記念祝賀式典式辞



(左) 祝辞を述べる田中正巳厚生大臣

(右) 大勢の参加者で盛り上がる祝賀パーティー

式典は1976年1月16日(金)午後1時30分から短期大学講堂にて、およそ800名の出席者を迎え、厳粛盛大に開かれました。

東京消防庁音楽隊吹奏の行進曲とともに、学生が大学、短大の順に校旗を掲げ入場しました。勝目卓朗短大科長の開式の辞を合図に国歌が演奏されたのち、松田進勇理事長が登壇して式辞を、山本郁夫学長が挨拶をそれぞれ述べました。さらに文部政務次官、厚生大臣ほか各界の来賓から祝辞をいただきました。

式典終了後は、会場をサービスセンターに移し、祝賀パーティーが開かれました。開宴にあたり鈴木勝日本大学総長が乾杯の音頭をとりました。お祝いムードにあふれた会場のあちらこちらで懐古譚や今後の抱負等に花が咲きました。

## 医学部第1回卒業式と医学研究科開設

1976年3月には医学部の第1回卒業式が行われました。さらにこの年は杏林大学大学院(医学研究科)の開設、看護専門学校校舎の竣工、三鷹キャンパスの体育館及びプールの建設工事が始まりました。また、コンピューター(教育研究・病院管理・人事管理・学生管理・経理・物品管理・給食管理・図書館の各システム)の導入が進められ、メイヨー医科大学院と姉妹校関係を締結するなど、様々な動きのある年でした。



医学部第1回卒業式は短大講堂で行われた(卒業生61名)。特別来賓のエマーソン・ウォード博士(メイヨー医科大学理事長)による祝辞。

#### ※ 1976年の出来事

- ▼「およげ!たいやきくん」大ヒット
- ▼ロッキード事件が明るみにでて、田中角栄元首相が逮捕される
- ▼モントリオールオリンピック開催
- ▼日本初のF1日本グランプリが富士スピードウェイで開催される
- ▼村上龍の『限りなく透明に近いブルー』が芥川賞受賞など

## 在学生リレー エンジョイ☆杏林 Life



### 患者さんの心配を取り除ける医師になりたい

ふるの はじめ  
古野 肇  
(医学部医学科1年)

入学してから5ヵ月。大学生活にだいぶ慣れてきました。初めは、高校時代や浪人時代との差に戸惑うことが多く、新しい環境に馴染めるか心配でしたが、先生方や友人、部活の先輩などに囲まれて、充実した学生生活を送っています。では私の学生生活について紹介します。

前期の授業で、私たち1年生は15のグループに分かれて、自分たちで設定したテーマについて調査し、発表を行うGP(グループプロジェクト)に取り組みました。私たちのグループは「災害時の身体的・精神的負担とは」というテーマで、被災地での医療に焦点を当てて調査を行い

ました。避難所生活を想定して実際に体験したり、被災地で継続してリハビリ支援活動をしている保健学部の河野真先生の講演会を受講したりしました。また、3.11の福島原発事故の際に東京消防庁特殊災害支援アドバイザーとして現地で対応した高度救命救急センターの山口芳裕先生へのインタビューも行いました。被災地での医療活動は、被災者の手を取り血圧を測るだけでも大変喜ばれるようで、被災者の方々に寄り添う姿勢が大切なのだ気づかされました。「医学生として被災した際、自分たちに何が出来るか?」という質問をしたところ、逆に「じゃあ、君た

ちに何が出来るのか?」と聞かれました。何も答えられなかった私たちに、山口教授は「自分にしかできないことを身につけて初めて、それを考える意味がある」と話されました。この時、私たちは改めて医師となるための努力を惜しまないことを心に誓いました。

私の学生生活に欠かせないのが水泳部の活動です。水泳は小学校以来で、ほぼ未経験者なのですが週3回、頑張って練習をしています。6月には1年生全員が東日本医歯薬看護学生大会に出場し、貴重な経験になりました。水泳部の部活動は週3回で、土・日は基本的に休みのため、勉強時間は十分にあります。勉強でわからないところがあれば、担当の先生や先輩に質問してわかるまで教えてもらっています。

1年では医学部らしい授業はまだ少ないのですが、患者さんの病気や怪我、心配をしっかりと取り除けるような医師を目指して頑張ります。

# 学部・大学院トピックス

## 医学部

### 海外の病院での臨床実習希望者への説明会



説明会の様子。真剣に聞き入る学生たち。最後に医学教育学 赤木美智男教授(右写真)は、留学とは「百聞不如一見(いくら人から聞いても、自分で見なければ本当のことはわからない)、百見不如一考(いくらたくさん見ても、考えなければ前に進まない)、百考不如一行(どんなに考えても、行動を起こさなければ前には進まない)、百行不如一果(どんなに行動をしても、成果を残さなければ成長しない)」というメッセージを送りました。

医学部6年生は4~5月の8週間、クリニカルクラークシップという診療参加型臨床実習を杏林大学医学部付属病院および国内外の病院で行います。ここでは医学生が診療チームの一員として参加し、指導医師のもとで許容される一定範囲内で医療行為を行い、将来医師となるために必要な知識、技能、態度を修得することを目指します。

来年度、海外の病院で実習を希望する5年生を対象に説明会が7月12日に行われ、あわせて今年度、シンシナティ大学病院、エバンストン病院、トロント大学医学部付属病院で実習をした12人の学生が実習報告を行いました。

海外の病院での実習は、世界水準の医学を学ぶ機会でもあります。実際、海外の病院実習を希望する学生は年々増えて

いることから、本学では受け入れ病院の拡大を図るとともに、杏林大学海外研修・留学奨学生制度を設けるなどして、経済面でも学生のグローバル教育を積極的に支援します。

### シンシナティ大学病院での実習に参加して 医学部6年 佐々木公将

シンシナティ大学病院の血液/腫瘍内科と移植外科に臨床留学しました。

実習終盤には担当患者を持たせてもらい、毎朝身体所見を取ってカルテを書きました。移植外科の手術も見学しました。異文化コミュニケーション、医学英語学習の面でとても刺激的な経験でした。



実習病院での写真(左右)。学生からは「医療スタッフの会話や専門用語に慣れるのが大変だった」「興味ややる気が一番。実習のチャンスを最大限に活かすべき」「自身のモチベーションが向上し、大満足の実習だった」「英語で医学を学ぶことで、世界が広がった」「希望して20時間の当直をさせてもらった。よい経験だった」など多くの感想が聞かれました。

## 大学院医学研究科

### がん診療・治療のリーダー育成 専門医、研究者養成コース

本学は、東京女子医科大学、帝京大学、駒澤大学と共同で文部科学省大学改革推進事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」を行っています。

今年度、医学研究科に「都市型地域医療専門医養成コース」と「臨床試験研究者養成コース」(博士課程)を設置しました。

#### ■都市型地域医療専門医養成コース

腫瘍内科の診療を通じて、がん診療や薬物療法の基礎的な知識を修得し、がん診療を行う診療科で実習をしながら、包括的ながん診療の指導ができるリーダーや最適な治療を実践できる医師を養成します。

#### ■臨床試験研究者養成コース

消化器がん、原発不明がんを中心にがん診療に関する全体像を把握します。適切な医療を提供する能力を修得し、臨床試験の計画・実施に参加しながら、それらを高いクオリティで遂行できる医師、がん治療開発のリーダーとして国際臨床試験に参加できる研究者を育成します。

## 保健学部

### 2013年9月シンシナティ大学留学プログラムスタート



シンシナティ大学看護学部の学生たち(左)。学生たちに向け大学院講堂で講演するGlazer看護学部長(右)

アメリカオハイオ州にあるシンシナティ大学での留学プログラムが、医学部に続き、保健学部看護学科看護学専攻でもスタートします。

昨年度からシンシナティ大学看護学部と短期留学プログラムについて検討を重ね、今年3月には、視察と話し合いを兼ね現地を訪問しました。

7月9日には、同大Greer Glazer看護学部長が三鷹キャンパスを訪れ、最終的な話し合いと本学科の教育概要を把握するために実習を見学しました。また学生、教員を対象に「アメリカにおける看護教

育」に関する講演(通訳なし)をしていただきました。

9月1日から15日まで、看護学専攻の4年生2名が総合看護学実習の一環としてシンシナティ大学に短期留学します。留学先では同大学学生と交流したり、看護学部の講義を聴講したり、大学付属病院、小児病院、地域クリニックでのシャドーイング実習を行います。

グローバル教育の推進に力が注がれるいま、医学部、保健学部看護学科のプログラムを契機に、シンシナティ大学との交流をより発展させたいと願っています。

#### Glazer看護学部長の講演「アメリカにおける看護教育」を聴いて

日本は米国の看護に追随しているといわれますが、講演ではいくつかの異なる点を理解しました。その一つは、教育課程の認定や資格試験です。米国では、学士以上の学位プログラムの認定はCCNE(大学看護教育委員会)、専門職業資格プログラムから学位プログラムまではNLNAC(全米看護連盟アクレディテーション委員会)、APRN(上級実践看護師)教育プログラムはNCSBN(看護州委員会)が行います。看護師免許はNLN(全米看護連盟)が定める一定の基準を満たした看護教育機関を卒業後、各州看護局、ANA(米国看護師協会)およびNLNが共同で実施す

るNCLEX(総合試験)に合格した者にRNの肩書で交付されます。

また、IOM(医学研究所)は、2020年までに学士号をもつ看護師の割合を80%に増やすこと、博士号をもつ看護師の数を倍に増やすことを推奨しています。看護教育の質の向上、大学教育の独自性を指向した教育改革は積極的に推進されており、まさに職業の有能性と大学教育は密接な関係があるとの示唆を得ました。また、学生はいつでも教育コースの内容をオンラインで学習できる環境にあり、こうしたシステム導入について、本学科でも今後の方向性として考慮したいと思っています。

(保健学部看護学科教授 今留 忍、大木幸子)

### 教員目指して

## 元高校長による教育支援

### 学校現場の体験活かし学生を指導



採用試験対策講座(左)で過去問題の解説を受ける学生。一人ひとり丁寧に行われる論文指導。「熱心に指導してもらえます。これからより気持ちを引き締めて頑張りたい」と話す3年生の岩崎仁美さん(右写真左)。「学生にはまず、期末試験対策をしっかりとり、よい成績をとることと、目的意識を持って計画的に学習を進めることを望みます。教職課程の教員一同全力で学生の支援にあたります」(篠田講師)

本学では保健学部健康福祉学科・看護学科看護養護教育学専攻、総合政策学部総合政策学科・企業経営学科、外国語学部英語学科、保健学研究科保健学専攻の3学部1研究科で教職課程を設けています。

学生は1年次から計画的に、取得希望の免許状に必要な科目(一般教養・専門教養・教職教養)を60単位以上取得し、4年次に学校現場実習を行ったうえで、教員になるためには都道府県・政令指定都市の教員採用試験や私立学校の採用試験に合格する必要があります。

現在、教職課程履修学生は3学部1研究科で360人おり、数十名の専任教員及び非常勤講師が指導にあたっています。

今年度から、教職課程の新事業として全学年を対象に、キャリアコーディネーター(校長職経験者)のオフィスアワーにおける教育支援・就職支援を実施しています。これは多様化する教育現場にあっても、子どもの成長を担える感性豊

かな逞しい教員を養成し、育った学生を一人でも多く教育現場へ送り出す取組を一層強化するためのものです。

篠田直樹非常勤講師(元新宿高校校長)が週1回2コマの時間枠で、小論文指導や筆記試験対策、個別相談を行っています。

7月上旬、東京都、神奈川県採用試験を控えた4年生の直前対策講座が行われました。篠田講師は「論文作成では、設問のポイントを見ぬくことと、教員の心構えを入れ込みながら筋道を立てて論理的に展開することが大切」などポイントを指摘しながら、次々と過去問題を解説しました。

#### ■平成25年度教員採用者数 (3学部合算 計39人)

内訳	常勤	7人
	期限付	3人
	臨時採用	29人

## 総合政策学部

### 「学際演習」英語でプレゼンテーション



世界を見る目を養うこと、日英両言語による調査・分析能力を養い、論理的で体系だった発表ができるようになることがこの学際演習の到達目標。「自分の考えをきちんと相手に伝える」ためのリサーチ力が重要なポイントになる。学生からは英語での発表に苦労したという感想のほか、「皆で協力して一つのことを成し遂げることがとても新鮮でした」「日本語でも英語でも相手にわかりやすく伝えることは難しい。今回は大きな挑戦でした」という声も聞かれました。

一つのテーマを複数の教員がアプローチすることで分野を超えたボーダレスな発想が身につく総合政策学部のユニークな授業「学際演習」。平成25年度前期は8つの「学際演習」が行われました。

このうち「学際演習 [7]」（担当教員：大川昌利教授、マルコム・ヘンリ・フィールド教授、荒井将志講師、久野新講師、三浦秀之講師）は英語での報告・発表を通じて、語学力と表現力を高め、さらに論理的な思考力や独創性を追求していくことを目的に行われ、1年生から4年生まで36人が受講しています。普段の演習は日本語で行われますが、前期授業の最終回は演習の成果を英語でプレゼンテーションすることが課せられています。

7月17日(水)、グローバルセミナー(※)として、4つのグループが「高尾山の魅

力」、「占いの秘密」、「キラキラネーム」、「オリンピックの問題点」のテーマで学生、教職員の前で研究成果を披露しました。

グループごとに自ら選んだテーマについてリサーチ・分析を重ね、論理的に構成を組み立て、さらに同講座の5人の教員による英語指導を受け、この日のプレゼンテーションに臨みました。

総合政策学部では、このような演習や講義をとおして、学生に物事の本質を理解する力や直面する問題の現実的な解決策を導く力を身につけることを目標にしています。

※八王子キャンパスでは主として学外からグローバルに活躍している方を講師に招いて、学生の国際教養修得や進路選択の参考になる講演会を開催しています。

### プレゼミ フレッシュャーズ・キャンプ in 2013

4年間ともに学ぶ仲間との親睦会に1年生217人が参加



学生からは「新入生同士、早く親しくなれた」「上級生からサークルを紹介してもらえてよかった」「雨だったが屋根付きの場所でのバーベキューだったので、楽しめた」「あつという間に食べてしまった。もっと食べて、もっと話をしたかった」等々の感想が寄せられました。

4月2日(火)、新入生を対象とした日帰りのフレッシュャーズ・キャンプを開催しました。プレゼミナールを単位として、学生と教員が授業開始前から親睦を図ることを目的に、1年生217人とプレゼミを担当する教員21人が東京サマーランド(東京都あきる野市)でバーベキューを楽しみました。

当日は、あいにくの寒い雨。しかし、皆で作業を分担しながら、かまどに薪をくべ、肉や野菜を焼き、特製のたれで調理し、一緒に食事をすると、学生同士、あるいは学生と教員の間、和気あ

いとした雰囲気が生じ、キャンプは目的を達成できました。

後片付けもスムーズに行われ、自発的に動く新入生の姿が印象に残りました。

2年生以上の学生も、サークル紹介の形で参加し、工夫を凝らしたスピーチをしたり、各プレゼミのテーブルを回り直接に新入生を勧誘したりと、キャンプを盛り上げるのに大きな貢献をしてくれました。

今年度の新入生について、「とても明るくて前向き」との感想をもった教員が数多くいます。

#### 総合政策学部 1年生の主なスケジュール

4月	5・6・7月	8月	9月	10月	11月	12・1月
・オリエンテーション	・学長との懇談会	・夏季休暇	・授業開始	・杏園祭	・第2回プレゼミ対抗プレゼンコンテスト	・冬季休暇
・フレッシュャーズ・キャンプ	・第1回プレゼミ対抗プレゼンコンテスト					・定期試験
・授業開始						
・プレゼミナール開始	・定期試験					

## 外国語学部

### 海外留学生のインターンシップ受け入れ



授業の様子。ディスカッションのやり方などを教わる学生たち(左)  
授業の進め方などを倉林先生に指導を受けるマイケルさん(右)

外国語学部では、6月26日から5週間、テキサス A&M 大学教養学部国際関係学科4年のマイケル・スミスさんをインターンシップ生として受け入れました。マイケルさんは大学卒業後、JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業: The Japan Exchange and Teaching Programme)に参加して、日本で英語クラスのアシスタントとして働くことを希望していることから、今回のインターンシップが実現しました。

大学では「英語特論」「英語IV」「日米比較文化概論」(ともに坂本ロビン教授)、「基礎演習」(倉林秀男准教授)の授業アシスタントとして、グループワークやディスカッションに加わるなどしました。また、月曜日から金曜日まで国際交流プラザの「英語サロン」で講師を務

めました。

学生からは「英語での表現の仕方がとても参考になる」「考え方や物事の見方などの違いが新鮮で授業が楽しい」などの声が聞かれました。

マイケルさんがアシスタントを務める授業の担当教員 倉林准教授は、「学生の理解度を考慮しながら授業の内容や課題を設定していること」「語学を通して様々な分野に関心を持ってもらえるよう工夫していること」など指導のポイントをマイケルさんに伝えました。

インターンシップの収穫は、「『教えること』を本当に楽しいと感じられたこと」と、マイケルさんは話しました。マイケルさんは7月末にインターンシップを終え、帰国しました。

Dear my kyorin-friends

I have really enjoyed my time at Kyorin University. I have made a lot of really cool friends. It was so much fun meeting you all, and I will miss you all when I return home. But I will always remember the time I had at Kyorin. Stay strong and love those around you.

July 25th, 2013  
Michael Smith



八王子キャンパスでよく遊ぶ仲間たちと。マイケルさん曰く、「日本で覚えた単語で一番気に入っているのが『タブン』。広い意味をもつから、結構便利。そのほか、『ヤバイ』もみんなが教えてくれました。『サイコー!』も好き」



## 高校生が杏林大学の講義を受講



大学生とともに講義を受ける高校生の高橋さんと田島さん(右手前)。秋学期、2人は「ホスピタリティ実習Ⅱ」を受講する予定です。

高大連携の取り組みの一環で、東京都立八王子北高校の生徒2名が外国語学部の春学期の講義を受講しました。本学では高校生が全15回の講義と、うち1回の定期試験を受けるのは初めての試みです。

今年2月、本学と都立八王子北高校は高大連携教育協定を締結し、同校の生徒が本学の講義を受講できることになりました。講義への出席状況等が高校に伝えられ、高校ではそれを単位に認定することになっています。

今回参加したのは、3年生の高橋千尋さんと田島香穂理さんで、神保真一客員教授の講義「ホスピタリティ実習Ⅰ」を受講しました。

高橋さんは、「講義では、高校と同じ

く先生との距離が近いと感じました。社会福祉士をめざしているので、講義で学んだホスピタリティを様々な人との関わり方に活かしていきたいです」と話していました。田島さんは、「マナーや言葉遣い、お客様に対する態度などを学びました。私は人と話するのが好きなので、将来は介護の仕事をしたと思っています。最近は相手の様子をしっかりと見る力がつき、お年寄りにも自然と手を差し伸べられるようになりました」と自身の近況も含めて話しました。

本学は大学での学びに意欲的な高校生の期待に応える教育の場を提供するために今後も継続してこの取り組みを行っていきます。(高大連携実行部会)



## クラブ・サークル紹介

八王子・三鷹両キャンパスではあわせて87のクラブとサークルが活動しています。今回は、医学部ゴルフ部と競技かるた部を紹介します。

### ●医学部ゴルフ部 団体優勝を目指し、日々努力!



今年の東医体会場北海道・クラークカントリークラブ(左)。昨年の試合の様子(右)

医学部ゴルフ部は、本年度12人の新入部員を迎え男子29人、女子20人、計49人で活動しています。

活動内容は、週3回大学近くの武蔵グランドゴルフで、打ちっぱなし、バンカー、パターの練習をするほか、毎週金曜日にツアーでの試合経験もあるティーチングプロの伊藤正治氏のレッスンを受けています。伊藤プロは動画や実際に打つ姿を見せてくれるなどとても分かりやすい指導をしてくれます。

年間出場試合は、関東医科大学リーグ戦春・秋大会、新人戦、東日本医科学生体育大会の4大会です。これらの大会では個人戦と団体戦が同時に開催されます。私たちは、これらの大会で団体優勝することを目標に練習に励んでいます。

関東医科大学リーグには約20校が加盟しており、杏林は一部Aリーグに所属しています。昨年の秋季大会は、男子団体3位、個人では現在M6の齋藤伸夫選手が準優勝、今年の春季大会では男子団体3位、女子団体5位、個人では秋季大会に続いてM6 齋藤選手が3位でした。現在、男女ともに優勝を狙える実力とチャンスがあると思っています。夏の東医体、秋のリーグ戦で団体優勝を目指します。

また、毎年6月にOB・OGを交えた親睦コンペ、11月に杏林オープンを開催するなどイベントも多くあります。

今後も杏林大学医学部ゴルフ部としての自覚を持ち、精進してまいります。

(ゴルフ部主将 医学部4年 宮島義明)

### ●競技かるた部

楽しさや魅力を皆で共有し、全国大会で視野を広げたい

競技かるた部は2012年創部の新しい部活です。私は中学生のときから競技かるたをしています。大学で出会った仲間と、かるたの楽しさや魅力を共有したいと思ったのが創部のきっかけでした。

部員は保健学部1年生から4年生まで24人。顧問は保健学部の片桐朝美先生です。週2回、キャンパス内の柔道場で練習したり、東京大学かるた会の練習に参加しています。個人戦を想定した試合形式の練習や暗記練習をしています。

競技かるたは、皆さんも一度は触れたことがある百人一首を使って試合を行います。部員のほとんどが「競技かるた」未経験者でしたが、すぐに百首覚えられ、今では大会を目標に日々、切磋琢磨し腕を磨きあっています。

8月10日に開催された第20回全日本



競技では、瞬発力や記憶力、精神力が求められることから「畳上の格闘技」とも呼ばれています。

大学かるた選手権大会(団体戦)に出場しました。この大会は全国大学かるた連盟と関西地区大学かるた連盟の主管で、滋賀県の近江神宮勤学館で行われました。1チーム3名の団体戦で、予選トーナメントを勝ち抜いたチームが決勝トーナメントに進みます。今大会には39大学が出場しました。練習の成果を出し切れず、杏林大学かるた部は予選敗退でした。来年は予選を突破し、優勝できるよう練習に励みます。

(競技かるた部 部長 保健学部3年 鈴木みき)

## 数字で見る杏林大学 ⑩

# 549 ?

549人、これは学生が大学に届け出た、昨年度1年間のボランティア活動の延べ人数です。ボランティア募集の形式は様々で、学生が独自に応募して活動をしている数を含めると、数は2~3倍になると思われます。

地域との連携・貢献は大学の大きな使命です。教員と学生が地域のボランティア活動に参加することで、学生たちは座学では得られない責任感や企画力、問題発見・解決力などを身につける機会となります。多くのボランティア活動や地域との連携の中から、数例を紹介しましょう。

医学部では統合医療研究部が「三鷹市 中高年の運動相談ーメディカルチェックと運動処方」(主催:医学部公衆衛生学教室、三鷹市医師会)のデータ処理を行っています。保健学部では「八王子市災害支援ボランティア」に救

急救命学科を中心に多数の学生が参加しています。また羽村市との連携協定に基づき、4年生が市内の中学校で救急蘇生法(AED)の指導をしています。総合政策学部の学生たちは、八王子キャンパスのある地元で、加住小・中学校の学校運営協議会が主催する「加住ふれあいコミュニティ」に参加して、児童や高齢者との世代間交流を行っています。外国語学部では秋田県湯沢市の「秋の宮温泉郷イメージアップ推進協議会」との連携協定に基づいて、5年前より学生が秋の宮温泉郷かだる雪まつりの会場設営から片付けまでの運営を手伝っています。

こうしたボランティア活動を学生に動機付けするには教職員の力も欠かせません。昔の象牙の塔のイメージのある大学とは異なり、地域社会のニーズに応え、地域に貢献できる学生を育てるために杏林大学は学生のボランティア活動を支援しています。



保健・総合・外国語学部の1年生を対象に実施した「平成24年度杏林大学学生生活実態調査」によると、学内外を問わず、①ボランティア活動を体験した学生は43.8%(前年度より微増)、②ボランティア活動をしたいと考えている学生は53.3%(前年度より増加)しました。

## 金田一 教授の研究室から ⑩

金田一秀穂(きんだいち ひでほ):1953年東京生まれ。東京外国語大学大学院修了。中国大連外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師。1988年より杏林大学外国語学部で教鞭をとる。

### 八王子キャンパスのサンドイッチチェーン

どのような大学が学生に選ばれるか、という答えの一つに、素敵なお店というのがあって、驚かされるのだが、確かに、いくつかの大学には、青山あたりのレストランと見紛うような学食がある。

以前、学生からも、学バスがほしいという要望のほかに、せめて吉野家かマクドナルドがあったらいいなというのを聞いたことがある。学バスは、学生数が少なく採算が合わない。まして吉野家は、大学が休みの時に客が来ない。とても商売が成り立たないのだということを話して、諦めてもらったことがある。しかし、数年前から、八王子キャンパスにも、有名サンドイッチチェーンがやってきてくれたのだ。

赤坂や六本木の店は、長蛇の列が出来ている。十分すぎるほどお洒落なお店なのだ。まずパンを注文する。中身もいろいろ指定できる。私はバターを塗ってほしいと頼むのだが、健康を考えてくれて、この店ではポリシーとしてバターを置かないのだそうだ。バターがないと、具の

水分がパンに沁みておいしくなくなってしまおうと思うのだが、それよりも客の健康が大切であるらしい。マスタードマヨネーズが好きなのだが、別々に塗ってもらう。ついでにスープやポテトもセットで買う。

何せ、せっかくこの山の中まで来てくださったのだ。儲からないからと撤退されては困る。学生には少々高価である。本郷の某大学にもこの店が出ていて、ローストビーフの三倍量サンドイッチというのが大人気であるらしい。さすが、金回りがいい。わが杏林生はそんなに豊かではないから、曜日によって安くなるサンドイッチが人気であるようだが、おじさんには無理な値段ではない。歳が歳だから、ローストビーフ三倍量は無理なので、スモークチキンにチーズを加える。学生のアルバイトも雇ってくれて、とてもありがたい。なるべく繁盛するよう、精いっぱい協力しているのだ。続いてほしい。



### 健康ひとくちメモ ⑩

#### クラミジア感染症

性感染症の一つである性器クラミジア感染症が、一般の若年者の中に蔓延してきています。

男性の多くはクラミジア尿道炎として発症します。感染者との性交渉1-3週間後に比較的サラッとした尿道分泌物や軽い排尿痛が出現します。症状があれば病院を受診し治療が行われますが、菌が侵入し、居続いても全く無症状の場合もあります(無症候感染)。20歳代で全く無症状の男性に尿の検査を行うと、なんと4-5%でクラミジアが発見されます。

女性では、感染機会後1-3週間で、帯下が多少増加する子宮頸管炎を発症します。さらにその菌がおなかの中に入り、卵巣や卵管の周りに癒着を起し、子宮付属器炎や骨盤腹膜炎を発症します。この場合下腹部痛が見られることもありますが、女性でも無症候感染が半数以上で見られ、知らないうちに卵管周囲の癒着を起し、将来の子宮外妊娠や不妊症の原因となることもあります。

近年性行動が多様化し、男女とも咽頭(のど)感染も増加してきています。子

宮頸管からクラミジアが見つかった場合、無症状であっても咽頭からクラミジアが検出される割合は10-20%と報告されています。

この病気が蔓延する原因は、感染しても無症状の人は治療機会を欠くとともに、次の感染源になることや、感染力が強いことがあげられます。感染者との1回の性交渉で淋病では約30%、クラミジアでは50%以上において感染が成立します。そのためパートナーの感染がわかったときは、たとえ無症状でも医療施設を受診し、ペアで治療することが必要です。

またクラミジアは特效薬で殺すことができますが、一度できた癒着を元に戻すことはできません。不妊症や子宮外妊娠といった将来のリスクを考えれば、感染予防が大切です。男女ともパートナーとの現時点での関係もありますが、妊娠を期待するとき以外はクラミジア感染症予防のためコンドームを正しく使用することが望ましいといえます。

(奴田原 紀久雄: 杏林大学病院泌尿器科教授)

ぬたはら きくお 昭和53年岩手医科  
大学医学部卒業、東京大学医学部泌尿  
器科を経て、平成6年より杏林大学医  
学部泌尿器科。専門は泌尿器科全般、  
尿路結石(臨床研究は多発性のう胞腎)



### 2013年度 大学行事・イベント (平成25年9月~平成26年3月)

9月13日(金)	卒業式(春学期)	11月11日(月)	創立記念日
9月17日(火)	入学式(秋学期)	12月27日(金)~1月5日(日)	冬季休暇
9月18日(水)	授業開始	1月6日(月)	授業再開
10月12日(土)、13(日)	杏園祭(八王子キャンパス)	1月中旬~	授業終了 *医学部の授業開始・終了、 冬季休暇はこれとは異なります
10月12日(土)	杏祭(三鷹キャンパス)	3月18日(火)	卒業式

編集を終えて .....  
• 杏林が地域へ世界へ開かれた大学になるための改革が、2016年の学園創立50周年と八王子キャンパスの三鷹移転に合せて始まっています。今号も紙面づくりに木下修先生からご助言をいただきました。(有)  
• 「新聞にも学問の香りを!」という読者からのご要望に応えた新企画では、総合政策学部の劉迪先生のご研究の一端を紹介しました。今後も、杏林の多様なリソースを取り上げていきたいと思えます。(有)  
• 大学新聞編集が佳境に入った8月初め、文科省の大学COC事業採択の連絡が入りました。本学の存在感を高める吉報に接し、トップ記事を予定していた第3次中期計画と急遽差し替えました。しかし、グローバル教育とともどもこれらが正念場。全学あげて実績を積み上げ、「進化する大学」の姿を見せていきましょう。(ふ)